

4：第2次千葉市文化芸術振興計画の取組における課題等	資料2-③
<p>【基本施策4：千葉文化の担い手を「つなぐ」】</p> <p>(1)情報の効果的な収集・発信 (2)多様な協働・連携の促進</p> <p>①主な事業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術発信事業では、千葉市文化振興財団がWEBやSNSで文化芸術イベントの周知を行っている。</li> <li>文化芸術協働事業では、千葉市文化振興財団が文化芸術活動を行う団体や個人の相談を受けている。</li> <li>地域連携事業では、地域の商店街が主催する祭りに参加し、地域の歴史や文化を紹介している。</li> </ul> <p>②事業を実施した中での課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ここ数年においても、目まぐるしい情報社会の発展により、人々が情報を得る手段は多様な広がりを見せている。日々多くの情報があふれるなかで、受け手側に情報がいかに響くかが重要であると考え。受け手側に響く情報発信とは、発信の手段の工夫だけではなく、情報を発信する側がどの事業においても一貫した理念、ミッション、ビジョンをもって実施していること、そしてそれが広報を通して受け手側に伝わることでありと考える。</li> <li>あの施設が発信する文化芸術事業のイベントであれば、これまで関心がなかったジャンルの事業であっても観てみよう、と感じてもらえるよう、これからは、情報発信を行う施設は、市の文化振興や文化芸術が市民にもたらす効果を考え、理念やビジョンやミッションをより具体的かつ明確なものにした上で、事業を実施し、広報を展開していく必要があると考える。</li> </ul> <hr/> <p>【基本施策5：文化芸術によって千葉の魅力を「活かす」】</p> <p>(1)魅力ある資源の活用 (2)魅力ある人物の活用</p> <p>①主な事業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>千葉文化創造事業では、市を題材にした脚本で、出演者を市民とした演劇等を行った。</li> <li>美術館や市民ギャラリーいなげでは、地域の歴史や文化を題材とした展示を行った。</li> <li>千の葉の芸術祭では、文化財施設や公園などを会場にした。</li> <li>Cフェスでは、練習の場の確保が難しい高校生の軽音楽活動の練習と発表の場を提供した。</li> <li>アーティストバンクでは、市にゆかりがあり市内で積極的に活動できるアーティストを登録し、イベント主催者等に紹介をしている。</li> </ul> <p>②事業を実施した中での課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場所に限らず企業や学校も含めた地域資源、市で活躍するアーティストや文化芸術活動に取り組む市民等の人的資源を活用して文化芸術事業を行うことは、シビックプライドの醸成に繋がる。また、文化芸術が盛んなまちとして市内外に認識されれば、市のブランディングへの貢献に寄与するものと考え。しかし、本市の文化芸術事業において、地域資源や人的資源の活用や連携が、未だ十分な広がりを見せてはいないため、引き続き、広く可能性を探りながら、活用や連携を広げていく必要があると考える。</li> <li>また、ボランティアに参加することが、市民主体の文化芸術事業が生まれるきっかけとなるよう、ボランティア活動に従事するなかで学びや体験の場を多く提供するなど、工夫を図るべきだと考える。</li> </ul> <hr/> <p>②市民意識調査の結果とまとめ</p> <p>市民意識調査の結果を踏まえて、「鑑賞体験」「文化芸術活動」「広報」「人材育成」「千葉市らしさ」「文化的なまち」と今後の市の文化振興を推進する上で、全般に及ぶポイントごとに、市民意識調査の結果をまとめました。</p>	<p>ポイント3【広報】</p> <p>鑑賞体験の課題として、情報が入手しづらいという課題があげられており、その中で希望する情報入手手段として、市政だよりに併せ、SNSが求められており、SNSを活用した広報などが一層課題である。</p> <p>ポイント4【人材育成】</p> <p>アーティスト調査において、アーティスト支援は十分に行われているかについては「思う」が15%程度であり、十分な支援が行われているとは言えない。なお、若手アーティストに対する支援について、市民、アーティストともに発表・展示の場や、活動するための金銭的支援が必要とされている。</p> <p>ポイント5【千葉市らしさ】</p> <p>千葉市の文化芸術は千葉市らしさがあるかという設問については、「感じられる」という回答が市民では約2%、若者では約14%しかおらず、千葉市独自の地域資源の活用が課題である。文化芸術が市に与える効果として、市民は観光資源として市外からの来訪者増、千葉市らしさの創出を期待している。</p> <p>ポイント6【文化的なまち】</p> <p>千葉市は文化的なまちかでは「思う」という回答が市民約4%、若者では約14%、アーティストでは約15%といずれも低く、文化的なまちとは言い切れない状況である。</p> <p>その中で、市ゆかりのアーティストを通じて千葉市の知名度向上の期待や、歴史的文化財の活用について、鑑賞したり触れたりする機会の創出が期待されている。</p>
	<p>5：新千葉市文化芸術振興計画を策定する上で注力する視点</p> <p>第2次千葉市文化芸術振興計画を推進する事業に基本施策ごとに取り組むなかで見えた課題、市民意識調査で見えた課題、社会状況の変化や、国の動向等を踏まえて、新しい文化芸術振興計画を策定する上で、注力する視点は以下の通りとする</p> <p>①多くの市民が文化芸術に触れる機会の充実</p> <p>市民のニーズを把握し、様々な分野やテーマでの文化芸術活動に気軽に参加・体験できる場をもうけることで、より多くの市民の文化芸術活動に対する興味関心をはかります。特に、将来の文化芸術の担い手となる子供や若者が文化芸術に触れて、文化芸術の楽しさを感じることができると機会の充実していきます。また、文化芸術活動を行いたい市民が期待する情報の発信（手段と内容）はもちろん、これまで文化芸術活動に興味関心がそれほどなかった市民が少しでも市内の文化芸術活動に興味関心を抱くことができるような情報の発信（手段と内容）の工夫を図ることが必要であると考えます。</p> <p>②市民が主体的に参加する地域社会の形成</p> <p>市民が多様な文化芸術活動を通して自らの創造性や感性を高め、多様性を受け入れ互いの心を通わせることで、お互いを尊重しながら生き生きと暮らせる地域社会が生まれます。また、地域における文化芸術活動を通じて、市民同士の新たな繋がりや地域への関心が生まれ、地域に主体的に関わるきっかけとなります。</p> <p>これまで本市では、市民や行政による様々な文化芸術活動が行われてまいりましたが、これまで以上に、国籍、性別、年齢、障害の有無にかかわらず、全ての市民にとって文化芸術活動が身近なものとして実感し、主体的に参加できる文化芸術活動の後押しが必要であると考えます。</p> <p>③文化芸術による好循環が生み出される環境の整備</p> <p>市民意識調査では、「千葉市は「文化的なまち」か」について、「思う」が低い割合となっております。</p> <p>文化的なまちとは、市民や文化芸術団体、アーティストが、生き生きと文化芸術活動が行え、それが企業や学校、経済、観光、教育、福祉等の分野と連携することで新たな価値を生み出し、その価値が文化芸術活動の質の向上を図るために再投資される好循環が生まれているまちであると考えます。今後、文化的なまちを目標に、文化芸術活動を行う個人や団体の活動を支える体制や制度の構築、様々な分野との連携を支える仕組みづくりが必要と考えます。</p> <p>④資源を活用した千葉市らしい文化芸術の創造</p> <p>市民意識調査では、「千葉市の文化芸術は千葉市らしさがあるか」について、「感じられる」が低い割合となっております。</p> <p>今後、千葉市らしい文化芸術を創造し、それを広く知ってもらうためには、文化施設のみならず自然や海辺、歴史などの地域資源の活用、また、アーティスト、アートマネジメントやボランティアなどの人的資源の育成とその活躍の場を広く設けていくことが大事であると考えます。また、複数の資源が会うことでの相乗効果で、千葉市らしい文化芸術の更なる発展を目指すため、それぞれの資源を効果的に結びつける場が必要であると考えます。</p>